

## 第2回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会育み部会議事録

- ◆開催日時 平成26年6月2日（月） 17:30～18:30
- ◆開催場所 市民会館小会議室
- ◆出席部会員 部会長 安宅 錦也  
副部会長 川村 正勝  
部会員 仲川 弘誓  
合田 美津子  
佐藤 文子  
磯田 大治  
佐藤 史彦（庁内検討委員会 部会長）  
【教育部次長】  
千葉 浩樹（庁内検討委員会 副部会長）  
【教育部社会教育G総括主幹】
- ◆欠席部会員
- ◆事務局 沼田総務部企画調整G総括主幹  
上野総務部企画調整G企画主幹  
西川原総務部企画調整G主査
- ◆議題 「第5章 豊かな個性と人間性を育むまち」について

### 〈部会長〉

それでは、第2回目となります育み部会を始めたいと思います。

今回も、前回に引き続きフリートークで、それぞれの立場からお話しいただければと思います。

前回の振り返りとしまして、観光都市としての国際人の育成、生涯学習の中でのこどもの体力づくりの環境整備、図書館の活用や学校図書館の環境整備の中での市民活動の推進などのお話をいただきました。

では、まず前回欠席の副部会長さんからお話しいただけますでしょうか。

### 〈副部会長〉

文化協会に所属していますが、活動の成果を発表する場の確保が難しい中、幸いにもできていることは非常にありがたいことだと思っています。

尺八などの古来の楽器をやろうという人が非常に少なくなっている中で、発表の場を通じて、自分たちがやっていることを見てもらう、聞いてもらう、触れてもらうことで、一緒にやってみようという人が出てきて継承に繋がっていくということが必要ではないかと思っています。

### 〈部会長〉

今、お話があった市民の中での文化活動のあり方というものについて何かご意見ありますでしょうか。

### 〈部会員〉

もう少し時間が必要だなと思うことが何点かあって、社会環境が大きな転換点にあると思いますが、まず、社会の中の課題整理が必要なことと、登別の現状と将来像の繋がりがベースとしてある程度理解されていないと、計画も絵に描いた餅になりかねないのではないかと思います。

それと、人口予測も見ましたが、登別としてどう捉えるか、今後10年の計画を立てるにしても、10年だけの計画で終わるのではなく、それ以降の長期的展望の中の10年として位置付けながら、我々も関わっていくことが必要ではないかと思います。

市は、ずっとアンケートをとっているが、それを行政の中でどのように分析しているのか。満足しているという回答が多いと思うが、個人の満足度のラインにまで踏み込んで分析していないと、個人の満足度の差の議論になりかねないし、私の中ではそういうこともずっと引っかかっています。

### 〈事務局〉

人口の関係は、おっしゃるとおり、10年計画の期間の捉え方は長いという人もいれば、あつという間だなと思う人いて、人それぞれの考えがあると思います。

第2期の計画もあつという間に10年が経過して今に至っていますし、人口にしても一般的に国民が減っていく、登別にしても例外ではないのですが、その減り方を緩やかにするような政策であるとか、そういうことを考えなくてはならないと思います。

人口が減るから、行政サービスを縮小すればいいんだ、というような後ろ向きの政策では意味がないと考えています。

減っていく人口への対策というものを、この計画には盛り込まなければならないのではと思いますし、子育ての政策であったり、この部会の教育、生涯学習であったりというものも政策の中に組み込まれていくものではと思っていますので、市民部会の中で、行政と話をしながら、そういったものが盛り込める余地があるのか、うちのまちの体力にあったことができるのかということを議論して行きたいと思います。

まちづくりアンケートは、24年、25年の2年間行い概ね満足しているという結果にはなりましたが、このアンケートだけでは、先程お話があったように満足の基準がどこにあるかまではわかりません。

もしかすると満足しているイコール興味がないという項目もあるかもしれませんが、それは、その世代層にとって関心のない内容の質問であったりすることがあったのかもしれませんが。

ただ、行政としては最低限の市民サービスの維持ということを中心に、そこから特色ある政策のために、人力と財力を投入していくのかというのがプラスアルファの

部分になると思います。

概ね満足できているというのは、そのベースの部分は実現できていると考えており、プラスアルファの部分についても、身の丈にあったものを実現できるのか、といったことを部会の中で意見交換をしながら中間点を取っていくことになるのかなと思っています。

### 〈部会員〉

このまちは、住みやすいし、自然に恵まれたいいまちであるとは思いますが、文化レベルの向上が課題なのかなと思っています。

バブルが崩壊して、各まちの体力差が明らかになってきた中で、満足しているというアンケートの回答結果は、それなりの取り組みをしているということなのかもしれませんが、これからですね。

### 〈事務局〉

基本計画の中ではあまり夢のないことばかりを言っても意味がないので、夢も盛り込んでいこうという話もしていて、この部会では、より良い育みを実現するにはどうすればよいか。

例えば、うちのまちは宅地を分譲してもすぐ家が建ってしまう。そこに住む人は、市内から来る人もいるでしょうし、市外から来る人もいると思いますが、家を建ててまで住み続けてもらえるということは、このまちに何らかの魅力があるのだと思いますが、そういった全般的な魅力の話をしてしまうと、まとまりがなくなってしまうので、魅力あるまちづくりが育みの部分でできるのかをこの部会で話し合っていくことになります。

子供の数もどんどん減っていき高齢化も進む中で、老朽化した生涯学習施設をどうするのか。これまでのようにすべてを建て替えることは難しいでしょうし、何を残し、将来に譲り渡していくのかということを考えていくことになるのだと思います。

### 〈部会員〉

少子化は、この先急激に進むことはないかもしれませんが、止まらないでしょうし、この流れは続いていくのだと思います。

高齢者にしても、今と10年後、20年後の高齢者層では、将来の方が経済的にも厳しくなることが予想され、余裕がなくなってくると思いますので、お孫さんの学費援助なども難しくなる可能性が高くなってくる。

大学にしても、定員割れするところが多数出てきており、希望すれば誰でも入れる時代がやってくるであろう中で、登別にはそれが無いので、お子さんに仕送りをして地方に送り出さなければならないという環境にあります。当然、経済的負担が重くのしかかってきますし、そうすると、ますます少子化が進むのではないかと思いますから、それに合わせた方策を考えていかないと、このまちからどんどん若い人達が出て

いくことになると思います。

また、地域の企業にしても、学生が出て行ったままで戻ってきてくれなければ、優秀な人材を確保しにくいといった悪循環が生じることになりますから、地域との連携を模索する中で、行政と民間で奨学金のような制度を創設するとか、何らかの方策を検討していく必要があるのかなと思います。

学校もある程度統廃合が進むだろうと予想されるので、統廃合する前にメリットは何かということ十分に考え、メリットを生かした計画を立てていく必要があると思います。

通学区域内の小中学校が連携して、例えば、英語など中学校で力のある先生が、小学校でも指導にあたりとか、今やれそうなことを進めていくことも大切ではないかと思っています。

#### 〈部会員〉

今度、教育委員会が変わりそうで心配なんですが、登別市の教育委員会のホームページを見たことある方いますか。大変申し訳ないのですが、すごくずさんで驚きますよ。

あれは何ともしないと。市民にアピールしなければならない情報が公開されていない。

#### 〈事務局〉

うちのまちは、行政、教育委員会が総ぐるみで支援して、民間とこいのぼりマラソンのようなイベントを行ったりというようなこともしています。

市民のライフラインに直接関わるような、行政がしっかりと行わなければならないような部分は押さえながらも、業務がこれだけ広範になってくると、やはりどこか手薄になってくる部分がどうしても出て来るものと思います。

それがホームページだとは言いませんが、職員も減っている中で全てに平均点以上を求めるのは厳しくなっていると思います。全て平均点でいいのか、少し落ちる部分があっても、他より秀でた部分を求めるのかというところだと思います。

#### 〈部会員〉

しかし、情報化社会の中で世界から見られているかもしれないホームページで、何年も情報発信していないのは、今人数が少なくなったからという問題ではない。

#### 〈事務局〉

観光関係であるとか、世界的に発信しなければならないものについては、ある程度変えていますよね。

多分、教育関係というのは、外への発信というより内向きの部分が強くてそうなっているのだと思いますが、これから先どうなの、と言われればおっしゃるとおりだと

思います。

登別では、こんな素晴らしい教育行政をやっている、それを世界に向け発信していくという考えはあっていいと思います。

#### 〈部会員〉

ホームページでは、時期を逸することなく積極的に情報発信していくことが必要だと思います。

#### 〈事務局〉

せっかくいいことをしているのだから、もっと PR すべきだということですね。

#### 〈部会員〉

今、姉妹都市どうしのスポーツ交流は野球とかサッカーですか。

#### 〈部会員〉

白石市とは幅広い範囲で行っています。

#### 〈部会員〉

そこに携わっている人の中から、子どもたちの教育にも関わってくれる人材が出るというですね。

#### 〈部会員〉

時代とともに、これまではいわゆる競技スポーツ中心で行ってきたものが、少年団の普及、強化へと繋がってきましたが、少年団という括りで進めるのも難しい。

学校単位の括りで進めるのも難しいという時代になってきています。

これから少子高齢化が進んでいく中で、登別としても、今後の10年については、今までの取り組みとは少し変えていく必要があると思います。

箱物の整備はわかりやすいですが、スポーツ施設の稼働率をもっと上げるとか、文化施設についても、もう少しシェアし合うとか共有が図られれば、広がりも生まれてくると思います。

それを行政に頼るのではなく私たちのほうからも発信できれば、協働ということに繋がっていくと思いますし、民間もしっかりやらなければならないと施策の中に盛り込む必要があると思います。

#### 〈事務局〉

将来に向けて登別にはどのようなスポーツ施設があるべきだと思いますか。

### 〈部会員〉

大きな施設である必要はなく、スポーツをする人だけでなく市民のみんなが集える憩いの場的な芝生の広場が、川上公園でもっとできたらいいなと思います。

### 〈部会員〉

将来的にはひとつの場所に集約していくことが必要でしょうね。

### 〈部会員〉

できれば、文化施設もあるといいですね。

### 〈部会員〉

市内の4地区に分かれていることを逆手に取り、この地区はここに力を入れる、ここを整備するとか、それぞれに特性を持たせて、できるだけ金をかけないよう維持管理については、市民と協働で進めていくというような方法も含めて検討していけばいいのではないのでしょうか。財政的なメリットもありますので。

### 〈事務局〉

他の地域にはあるものが自分の地域にない場合、同じものを自分の地域にも作って欲しいという考えを持つ人もいます。

今は、合併せずに他のまちの都市機能を利用しながら、住み慣れた圏域に住み続けることができる定住自立圏構想という施策があり、登別市も室蘭市と協定を結んでいますが、例えば、登別の図書館をやめて代わりに室蘭のどこか違う場所に建てましようとなった場合、賛成・反対それぞれの立場からいろいろな意見が出てくると思います。地域間でも同じようなことがいえると思いますがどうですか。

### 〈部会員〉

ものによると思います。図書館はだめですよ。

バスが巡回するのなら別ですけど、子どもや老人がお金を払ってまで他のまちに本を借りに行くなんてあり得ないことです。

### 〈事務局〉

ここにいても借りることのできるシステムがあればいいんですよ。

### 〈部会員〉

数年後には、自分の部屋のパソコンから図書館の本を見ることができるようになるのではないのでしょうか。

検索と配本がセットになった仕組みができるといいですね。

〈事務局〉

子供会の活動について、こうすればもっと活動しやすくなるのか、子どもと大人の立場から何かありますでしょうか。

〈部会員〉

この2～3年は、予算削減の関係で事業活動が厳しくなってきたことと、若い育成者が育っていないということ、何より事業を実施しても子どもたちが集まらないというのが悩ましいところです。

各地区でもそれぞれ工夫を凝らして、例えば、夏休みの自由研究の素材であるとかサポートになるような内容であるとか、いろいろ吟味しているのですが集まりません。

予算に限りがあるのでどうしても最低限の参加費の負担をお願いすることになるのですが、そうするとますます集まらない。

ただ、パン作りであるとか、食べ物を作ったり食べたりする食の関係は、人が集まりますし、幌別以外の地区でも実施してほしいという要望が来るくらいの人気です。

基本的に親子参加型の事業には人が集まりやすいのかなと思いますが、では、何をすれば若い親が関心を持って参加してくれるのか。それを見つけていくのが最大の課題ですね。

〈部会員〉

今、食育について登別ではどういう教育をしているのですか。

〈部会長〉

栄養教諭が各学校の各学年に合わせた内容の食育指導をしています。

〈部会員〉

地元企業とのタイアップのような取り組みはしていますか。

〈部会長〉

特にしていませんが、地元の食材を献立に取り入れて栄養素の勉強をしたりという取り組みを、少しずつではありますが始めています。

〈部会員〉

地元の生産者を見てそこで生産されたものを、調理して食べてみるということも必要かもしれませんね。

〈部会員〉

登別牛は登別産ですよ。

〈部会長〉

地元の食材をメニューに取り入れていく取り組みも行っています。登別牛を使ったすきやきですとか、登別産のたらこを使ったスパゲッティなどですね。

〈部会員〉

戻りますが、子どもたちを集めるためのPRはどのようにしていますか。

〈部会員〉

学校にプリントを配って募集しています。お金のかからない企画であっても人気がありませんでしたね。

〈部会員〉

休み中でも行けない子供は多くいると思うので、これに限らず、これからは人数の多さではなく満足度を着眼点にすべきではないかと思います。

〈部会員〉

プリントの内容を見て、出来上がったものがイメージできるような工夫も必要かもしれませんね。

〈部会員〉

あと、企業との連携も必要ではないでしょうか。

〈部会員〉

ある程度のメニューの中から子どもたちが自由に選べるというのが理想ですね。

〈部会員〉

去年行ったプロ野球球団の野球教室では、体育協会にお願いして学校のスケジュール確認をしてもらい、空いている日程を利用して募集をかけたが、予想に反して大変多くの参加者が集まりました。

緻密に考えていくと、どこかに隙間があって人も集まりやすいということはあるのではないのでしょうか。

〈部会員〉

ある事業を行うにしても、例えば、この指とまれ方式にして、この事業に協力してもらえる団体や人を集めて、その事業が終わったら解散というようなやり方もあると思います。それを、NPOあたりが中心となってやってもらいたいですね。



〈事務局〉

それをやるのは、市民活動センターですよ。

自分たちの団体だけでは成し得ないことをしようとするときに、協力してもらえる団体をネットワークを通して募る。そのために活動センターに登録するのですから。

〈部会員〉

情報提供をなかなかしようとしなない団体もありますね。

〈部会員〉

人口も限られた中で、活動人口も減り、予算の制約もあるといった状況下で、何かをやっていくというときに、みんなで連携しあいながら、今できる人が自分のできることから協力していくという考えが、市民側、まちづくりのベースにあればできると思います。全市的に取り組みができるといいですね。

〈事務局〉

元鬼協議会も、もともとそうですよね。

〈部会員〉

実際に関わってきて、意外に閉鎖的だなと感じることはありましたね。自分のところが何とかなってしまう他には興味を示さないとか。人数にしてもこれ以上増えることをあまり望んでいない人が多くて少し驚いたのですが、繋がってみて何かを成し遂げた時の嬉しさであるとか、楽しさを体現できる場を私たちのほうで作っていった、できるものからやっていきたいですね。

〈部会員〉

活動センターにぜひ相談に行ってください。

〈事務局〉

部会長、そろそろ時間となりましたが。

〈部会長〉

先ほどからお話を聞いていて、コンパクトに少しでも連携を図りながらまちづくりができないか、というのがポイントになるのではないかと思います。

次回は6月30日、月曜日になります。

〈事務局〉

皆さん、2回のフリートークで語りつくしましたか。私の考える教育であるとか、

登別市の生涯学習とかもう十分ですか。

十分であれば次回からは体系図に入っていくことになりましたが。

〈部会長〉

皆さんどうでしょう。もう少しやりますか。

〈部会員〉

もう少し話をして共通理解を深めたほうがいいと思いますが。

〈部会員〉

生涯学習も前とは考えが変わってしていますが。昔は教育委員会が中心となって活気があったように思いますが今はどうなのでしょう。

〈市庁内部会副部会長〉

昔の生涯学習の進め方というのは、多分、職員が一緒になって市民と事業を盛り上げていったと思うのですが、今はそういうのがかなり薄れていて、教育委員会はそこまでの仕組みを作り上げるところまで、あとは市民の方のコミュニティで会いましょうというように、昔よりは分業的になってきている面はあると思います。

余裕がなくなってきた、ということがあるのかもしれませんが。

〈部会員〉

生涯学習をする環境を行政がバックアップするというのが望ましい形ですよ。

のぼりんはそのための施設だと思っていますが、私自身の中で見えていない、イメージできていない部分があるので、少し整理する必要があるのかなと思っています。

世代間の認識のずれという問題もあります。

〈部会員〉

今回は、この部会ではここに特色を持たせるとか、ここに力を入れるというように、ポイントを2つ3つに絞って話をしたほうがいいと思います。

〈部会員〉

行政に頼らず自分たちでどこまでできるんだ、というのを探っていくことも必要ですね。

〈事務局〉

第2期の計画にしてもこれからの第3期にしても、他のまちでやっているようなことは登別もひと通り行っていると思います。

その上で、登別は、他のまちと比べてここが足りないからもっと力を入れていくべ

きだとか、逆に、登別はこの部分が優れているから、さらに力を入れて伸ばしていくべきだ、などということをも6人の委員の皆さんに十分議論していただき、教育部門の市民部会としては、第3期の基本計画ではここに力を入れるべきだ、ということを書いていくのがいいのかなと思います。

次回までに資料を少し読んできていただき、皆さんのこれまでの経験と、まちの現状を踏まえて意見交換をしていただき、方向性を探っていければと思います。

あと、学校の統廃合の問題も今後必ず出てくると思いますが、それについては、単純に児童数が少なくなったから統廃合するんだ、という視点からではなく、皆さんが、こうすべきだ、こうあるべきだと思っていることを書いていただきたいと思います。

#### 〈部会長〉

では、次回は6月30日、市民会館の小会議室で17時30からとなりますのでよろしく願いいたします。